

2023年5月 紀南病院 研修医通信 Vol.128

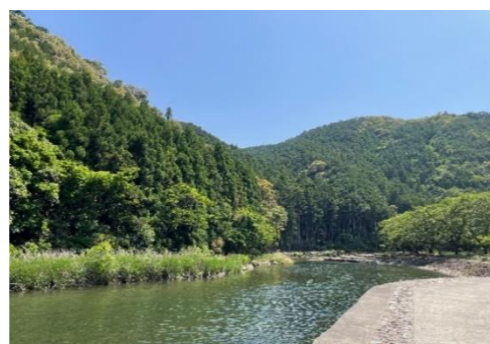
この度は、1か月間紀南病院で研修させていただきありがとうございました。とても充実した毎日を送ることができ、先生や病院の方々、地域の方々に非常に感謝しております。5月の研修医通信は、三重県立総合医療センター大須賀一輝、三重県立志摩病院 細道優也、鈴鹿中央総合病院 伊藤優太、堺市立総合医療センター 中谷早希が務めさせていただきます。ぜひ最後まで読んでくださったら幸いです。よろしくお祈りいたします。



伊藤です。三重の南端にある御浜町に位置する紀南病院。三重県庁所在地津から車を走らせて約2時間半かかりました。到着は夜ということもあって暗くて何も見えなかったため、朝初めて病院から見える景色を見ました。天気は晴れということもあって、絶景のオーシャンビューが広がっていました。その光景は今でも鮮明に覚えております。

紀南病院では、病棟業務、プレゼンテーション、内視鏡、救急外来などを指導医の先生方を中心にご指導いただきました。教育熱心な先生方ばかりで、丁寧なご指導とたくさんの手技の機会を与えていただきました。紀南病院の先生方は自分の診療科に限らず内科全般を診られており、なかなか自分たちが勤めている病院では見ない光景で、専門だけではなく、非専門の領域まで診ることができる大切さを学ぶ機会となりました。研修を通じて特に印象的だったのは、先生間でのコミュニケーションが活発であることです。診療のことについてよくディスカッションしていて、チームで診療しており、とても雰囲気がよく、自分も働きたいと思える空間でした。また先生間だけではなく、コメディカルの方とのコミュニケーションも活発で病院全体を通してとてもいい職場と感じました。

今月私研修医大須賀は相野谷診療所に行かせていただきました。紀南病院では地域の中核を担っており、さまざまな診療所より紹介されて入院治療をおこなって診療所では一体どのような医療をおこなっているのかと感じていました。相野谷診療所では外来診療と訪問診療を研修させていただきました。普段、総合病院で画像検査をすぐ撮像できる環境なので、治療介入が必要かどうか

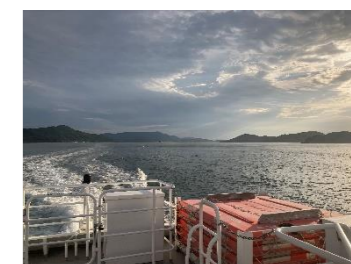


かの判断として、いかに病歴聴取、身体所見を正確にとるかの重要性を改めて思いました。また、診療所では何事も相談される信頼関係を築くため、患者さんの背景や人生の価値観を知ることの重要性を教わり、個人各々の背景や価値観に合わせた医療だけでなく、“人”を診て行こうと思いました。訪問診療では普段見られない固くならない自然体の患者さんを診察するのも新鮮であり、僻地では通院も一苦労であることも体験できました。

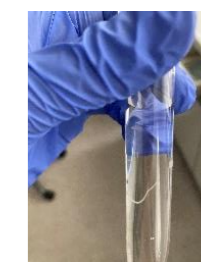


次は中谷の番です。転院搬送や、熊野消防署見学を通して救急隊の方とお話しする機会をいただきました。普段救急外来では救急隊から情報が整理された状態で申し送りを受けます。また比較的家族も本人も落ち着いた状態で来院し、病歴聴取もスムーズなことがほとんどです。今回初めて入電から救急車出動の流れを見学させていただきましたが、通報者はかなり気が動転していて電話越しにはこちらが必要な情報をなかなか聴取できないことがわかりました。電話がかなり荒れているので消防署の中でも入電を受けるのが苦手な人もいるとか…。また救急隊の特定行為は「ほんとは許可されていないけれど人命救助のために行った」といった事件をきっかけに拡大しているという裏話も聞かせていただきました。

今月研修医の細道は神島診療所に行かせていただきました。神島は自然豊かで三島由紀夫の潮騒のテーマにもなった場所ということもあり、観光客も何人かいらっしゃいました。場所としては鳥羽から船で40分程度で行ける割と近めの離島ということもあり、離島内の急変疾患が起きた時は漁師さんの船を借りたり、ヘリで搬送したりして意外と早めに搬送出来ることに正直驚きました。他にも離島ならではの診療スタイルとしてはオンライン診療を取り入れておりました。医師が天候や夜間などで島に来れない時でも島在住の看護師さんの力を借りて、急変診療を行うことが出来るシステムを構築し、Face to Faceで向き合えるようにビデオ通話をしながら離島医療を多職種で支えていることにもすごく驚きました。なかなか病院研修では学ぶことが出来ない貴重な体験をさせていただきありがとうございました。



最後になりましたが、指導医の先生方、鈴木先生、津呂橋さんをはじめとするお世話になった方々、短い期間でしたが、大変お世話になりました。普段は特定の診療科のことだけを勉強する1か月ですが、内科という括りでいろいろな診療科の勉強をすることができたうえ、地域のさまざまな魅力を知ることができました。おかげさまでとても充実した研修を送ることができました。ありがとうございました！



↑左から大須賀、細道、伊藤